

Newsletter 19

ニュースレター Vol.19 2013年9月13日発行

2013 カニパト無事終了！

ここ一週間、にわかにツクツクボウシの声たかく、天行く雲はちぎれ雲。ハマカンゾウも満開で、着実に、すこしせわしなく、猛暑の夏すぎてゆきます。

8月25日をもって2013年度カニパト終了。やむをえず大潮のタイミングとあわない設定となりましたが、嵐や雷に遭遇することもなく、コープさん、トラストさん、東芝環境部のみなさまなど、多彩なお客様を含めて参加市民188名、スタッフ198名。次世代育成を柱の一つともする、カニパトラしい、緊張感あるカニパトになったかと存じます。紙芝居、設営作業、しっかりこなしてくれた若手スタッフのみなさんに、大きな拍手。

9月に入り県から矢継ぎ早に連絡がはいります。来年7月に延期となった開園にむけ、散策路整備、パンフレット作成作業が始まるとのこと。NPO調整会議も秋風とともにガテンモードへ。谷の整備作業がはじまります。県、トラストとしっかり連携して、一気に仕事、すすめます。

文末になりましたがビッグニュース2つ。25日、カニパトに参加された東芝電気環境部長実平さまより、調整会議あて多額のご寄付のお申し出をいただきました。トラストを通してのご提供。多難の上にも多難の予想される2014年にむけ、本当にうれしいニュースです。もうひとつは、雨の日も風の日も、昼も夜もなく、干潟保全のための調査を続けてくださった小倉さん、江良さんの記録が、慶應義塾の紀要論文として出版されます。絶滅危惧種満載の仰天・驚異の小網代河口干潟の姿が、世に発信されてゆきます。

岸 由二



今年も無事、放仔を見守ることができました。
ご協力に感謝いたします。

カニパトロール2013報告

猛暑の中のカニパト 2013、最終日は土砂降りでしたが、全日程を無事終了することができました。カニパトを支えた延べ 193 名のスタッフ、アドバイスに従ってアカテガニの放仔を見守ってくださった 188 名の観察者、みなさんに感謝です。

スタッフの日記から、カニの様子・自然の様子・参加者の様子・何でも感想をピックアップし、カニパト 2013 の報告とさせていただきます。 辻 晴一

参加者数等

| 期 | 月日 | 観察者数 | 主な観察者 | スタッフ数 |
|-----|----------|------|--|-------|
| プレ | 7/21 (日) | 4 | 個人・家族等 4 名 | 38 |
| I | 7/27 (土) | 21 | 県横須賀三浦地域県政総合センター1名、横須賀学園中学校 3 名、三井住友信託銀行 5 名、個人・家族等 12 名 | 22 |
| | 7/28 (日) | 7 | 県横須賀三浦地域県政総合センター1名+ご家族 2 名、個人等 4 名 | 25 |
| II | 8/10 (土) | 41 | 小網代の森と干潟を守る会 15 名、県横須賀三浦地域県政総合センター3名、個人・家族等 23 名 | 17 |
| | 8/11 (日) | 0 | — | 20 |
| SP | 8/21 (水) | 65 | かながわトラストみどり財団 28 名、ユーコープかながわ 37 名 | 19 |
| III | 8/24 (土) | 44 | 港南区自然学級の会 37 名、神奈川県 1 名、個人・家族等 6 名 | 25 |
| | 8/25 (日) | 6 | 東芝関係者 3 名、個人・家族等 3 名 | 27 |
| 合計 | | 188 | — | 193 |

注：8月21日は、主催 かながわトラストみどり財団、共催 ユーコープかながわの観察会が実施され、サポートをしました。

●カニの様子

- ・7/21：最初の出は悪かったが、ピーク時間 10 分前から徐々に放仔个体が増え、先頭の岩場では 30 分で 30 匹ほどが放仔した。
- ・7/27：日没後 25 分ではピークにならず、35 分後位にピークとなった。本日は日没 16：49、満潮 19：57 と差が大。新しい経験だった。
- ・7/28：出は遅かった。ピーク 19：15 の予定が 19：30～40 頃。満潮の関係か。真ん中で 20 匹、先端で 20 匹ほど。
- ・8/10：前半は少数だったが、後半は多数。但し、カニは小型のものが多かった。
- ・8/11：昨日より少なく、満潮が遅かったためか、ピークも最終 19：00～19：10 頃だった。
- ・8/21：非常に多い。岩場で 30 分 70 匹以上。／2 回生中心。3 回生も。
- ・8/24：カニの数はかなり見られたが、放仔个体は少なかったように思われた。放仔のピークも少しずれていたようだった。
- ・8/25：大きな赤色の个体が明るいうちに見られて感激。／雨のためか数が少なかった。

●自然の様子

- ・7/21：日暮れ前後にツバメ群舞。／アンドンクラゲが多い気がする。／ずっとカワウが鳴いていた。
- ・7/27：小網代は穏やかだったが、東京は大雨だったらしい。／ボラが多かった。
- ・7/28：ウシガエルやウの声が聞こえてよかった。
- ・8/10：ヤブヤンマ・ギンヤンマ飛ぶ。／ミズクラゲが出没した。／蒸し暑い夜。
- ・8/11：夕焼け空に三日月。波の中に月影が揺れて赤く映っていた。一番星のスピカ低く輝いていた。
- ・8/21：空模様が気掛かりだったが、雨にならず無事完了したことに安堵しました。
- ・8/24：別荘前、ボラがよく跳ねていた。ツバメが餌をとりながら宙返りしている。北尾根のノブドウの実がもう紫色に色づき始めました。／日没前はセミが賑やかだった。
- ・8/25：16 時半頃から雨が降り出し、小雨状態だったが、18 時半頃から本降りに。／アオマツムシ・ツクツクボウシが鳴いている。

●参加者の様子

- ・7/21:今日はプレなので人数も少なく何も問題はなかったが、本番はこの何倍もの人数になると思うと、気を引き締めて行わないと、と思いました。
- ・7/27:約20名の参加者があり、第I期1日目としては適度な規模の観察会となった。スタッフも慣れたことと思う。
- ・7/28:放仔が始まるまでよく我慢してくれた。結果的に放仔がよく見られて満足していただけた。
- ・8/10:比較的マナーよし。初めての方は半分位と思った。ヤッターヤッターの声が響いていた。
- ・8/11:一般参加者はゼロというこれまでにあったか否かの珍しい状況。
- ・8/21:子どもが十数名いたが、大きな混乱なし。／賑やかで楽しそうだった。
- ・8/24:和気あいあいと、日頃よく活動しているグループのようで、楽しく観察していた。小学生男子元気だ!!／6歳以下の子はじっとしていられず、カニが逃げてしまった。なかなか難しい。
- ・8/25:東芝の皆さんのセレモニー、寄付目録受領など記念行事でサプライズが楽しかった。

●何でも感想

- ・7/21:毎年緊張してこの日を迎える。たくさんの若い皆さんの参加でよいリズムでできた。今日は穏やかな観察だったが、本番は甘くない。リーダーから咄嗟にきつい言葉が飛ぶこともあるかもしれないが、修行と思って取り組んでほしい。
- ・7/27:ゾエアが採れてよかった!!かなり緊張しましたが、紙芝居も何とか(笑)。またやりたいです。
- ・7/28:今年初めて参加したスタッフも研修を入れ3日目なのに、ずいぶん慣れて、動きがスムーズ。
- ・8/10:NPO事務所にアカテガニ広場までの行き方がわからないという問合せが多くあり、守る会の観察会を紹介したため、人数が多いのではと心配したが、程よい人数だった。守る会とうまく役割分担ができた。／体調をこわして欠席の方が出ているので、体調管理にご注意ください。
- ・8/11:13:47神奈川県に竜巻注意情報が発表されたが何事もなし。無事カニパトII期2日目終了。／荷物番も今日はゆったりと、普段なかなかできないソーラーライトの点検ができてよかった。
- ・8/21:現地についてから、一度スタッフ集合して打合せをすべきだった。天候が不安定でやむを得なかった部分もあったが、散策案内、帰路案内の担当スタッフ、トイレ案内のことも事前に決めるべきだったと反省。スタッフ同士のあうんの呼吸で乗り切った。
- ・8/24:7時前に雨がポツポツ落ちて来たが、うまい具合に大降りにならず無事終了できてよかった。
- ・8/25:ちょうど海に入った頃から雨が本格的になったが、無事に観察できたので良かったです。／初めてカニパトに参加したインターンの皆さん、また定例作業(毎月第3日曜日)に是非参加してください。



紙芝居



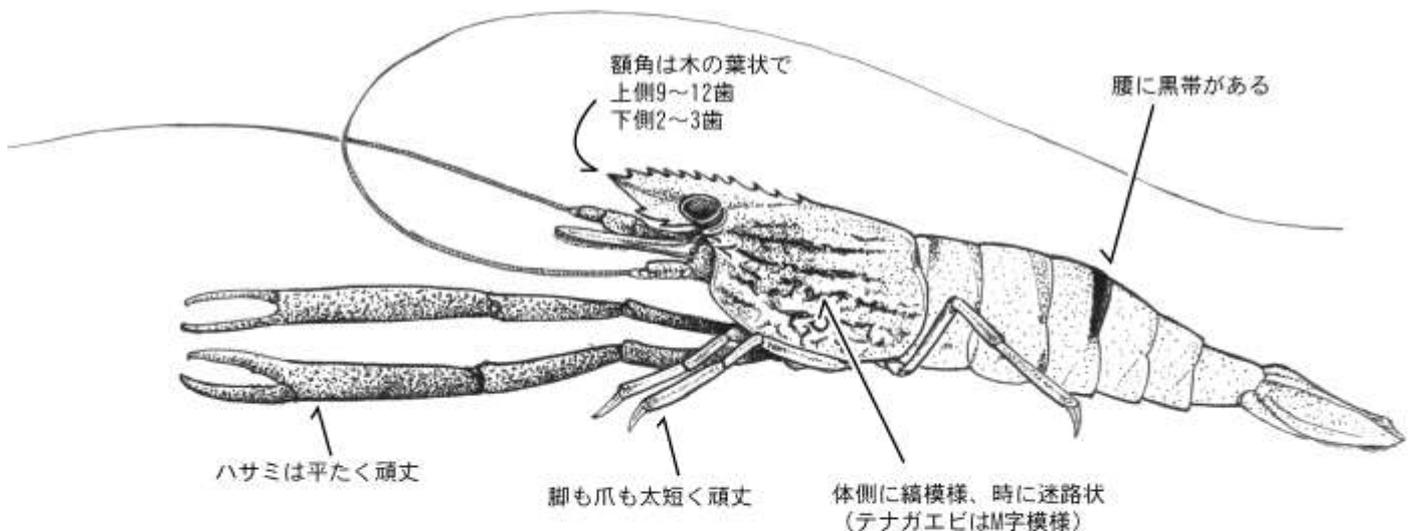
ゾエア観察

浦の川生きもの通信

報告
江良弘光

<ヒラテテナガエビ、増えてます>

全体にテナガエビより太短く、
がっしりしている。



ヒラテテナガエビ

Macrobrachium japonicum

浦の川では三種類のテナガエビに出会えます。テナガエビ・ミナミテナガエビ・ヒラテテナガエビです。これは九州以北で出会えるテナガエビ全種類です。

今回紹介するヒラテテナガエビは三種の中でもっともがっちりしたテナガエビでその名の通り、テナガエビより平たいがっしりしたハサミが特長です。弁慶橋あたりから源流部まで見られますが、下流部より上流部の方が多く見られます。

他の二種より遡上能力が高く、少々の障害なら乗り越えて上流へ登る事ができます。がっしりした体つきはそのためのものなのでしょう。よく見比べると脚も爪も太短く、上流へ向かうのに適した構造になっている事が取れます。

こうした特長のため、2008年頃の暗く、遡上

障害物の多い頃にも上流部で確認できる数少ない生きものの一つでした。その頃の浦の川はあちこちにせき止めがあり、場所によっては干上がってしまっていたりしたので、ウナギ同様、よくこんな環境で遡るものだとその遡上能力の高さに感心したほどです。

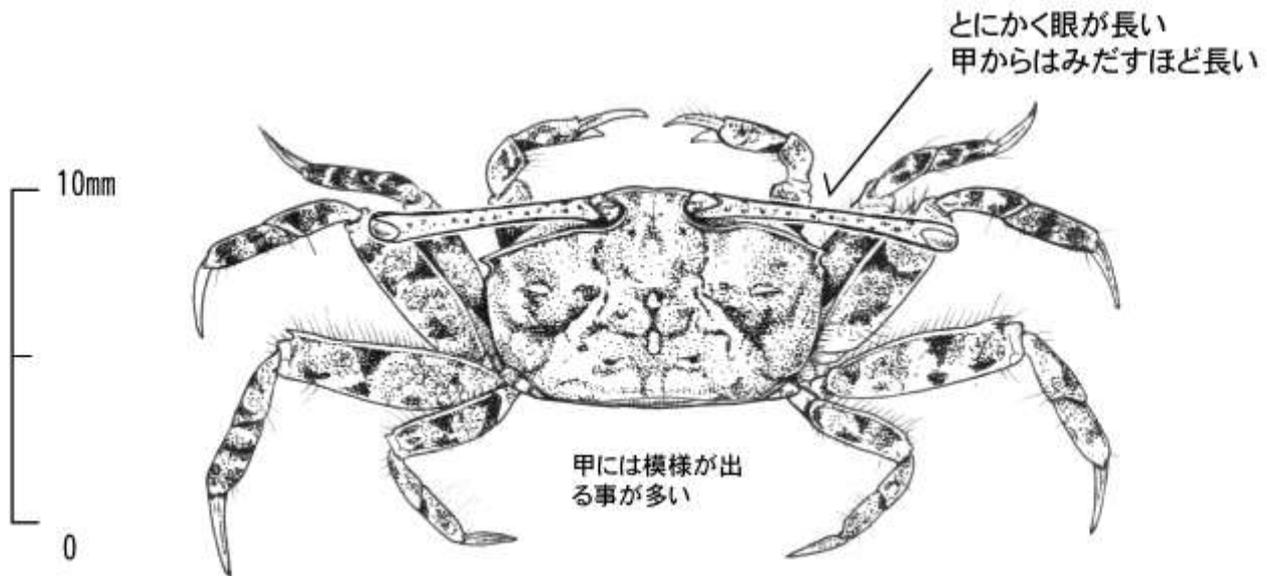
その後、浦の川は急速に明るくなり、生物相も順調に回復しました。エビの餌となる生きものも増えたので、ヒラテテナガエビも大幅に増加しました。今では、淵に網を入れると15cmを超えるような大型の個体がたくさんとれる事も珍しくありません。浦の川が彼等にとって住みやすい川になっている証拠でしょう。暗い頃からがんばっていた種類なので、水系調査員としてなんだかうれしく思っているのです。

小網代の干潟にまつわる物語



絵：文江良ヒロアキ

＜新たに見つかった、ヒメメナガオサガニ＞



ヒメメナガオサガニ

Macrophthalmus. (Macrophthalmus) Microfylacas Nagai

干潟RED 準絶滅危惧種 伊豆以北では初記録となる

小網代の谷では、アカテガニがシンボルであることもあって、カニはよく調べられていて、あの狭い湾内ですでに50種ものカニが記録されていました。そんなわけで調査をしてもそんなに発見はないのではないかと思っていたのですが、ところがどっこい、どんどん見慣れないカニが見つかって面食らっています。今も発見のペースは落ちていないので、まだまだ新しい子に出会えそうです。うれしい悲鳴ですね。

そんな新顔の一つが今回紹介するヒメメナガオサガニです。このカニは2003年に新種登録されたカニで、それまではメナガオサガニの稚ガニだと思われていました。メナガオサガニより小さく、そのため相対的に眼が長く見えます。

どうも、オサガニなどと違って、干潟が干出する時は巣穴にこもっているようで、干潟が陸化してるときは出会えないため、どれほどの数

が暮らしているのか、今のところさっぱりわかりません。採集されたのは、春干潟が大きく干出した時に大人数でランダムに掘った際、偶然見つかったものです。その後採取された近辺を重点的に搜索していますが見つかっていません。

見分けるのは簡単で、甲からはみ出すほど目が長いので、それこそ一目瞭然です。ただし、メナガオサガニとヒメメナガオサガニの区別は微妙で、ハサミなどを仔細に観察しないとわかりません。

どちらのカニであるにせよ、東京湾・相模湾を見渡しても、近年まったく記録の無い種類で、つくづく小網代湾の奥深さを思い知らされます。温暖化にともなって、南方種の増加も目立っています。今後もどんなカニに出会えるのか楽しみです。

小網代応援団

NECソフト株式会社

CSR推進部の星野光一様にお話をうかがいました。

— CSR推進部ではどのようなことに取り組まれていらっしゃいますか？

NECソフトは、全国のお客さまにITサービスやシステムを提供している会社です。その中でCSR推進部では、将来にわたって「持続可能な社会」の実現を目指すため、企業の社会的責任を果たすことを目標としています。この目標を果たすため、社員が社会に対して感受性と俯瞰力が高い人材になるように社会的課題を認識し、自発的に行動できるプログラムやイベントを企画しています。

— 小網代の森保全へのご支援の経緯と、今までの経過について教えてください。

本社は東京都江東区新木場にありますが、神奈川支社もあり、神奈川県内に多くの社員が住んでいます。社員と次世代を担う子どもたちに、環境に対する意識を高めてもらうために、夏休みに親子で参加できるイベントを企画していたところ、7年前に小網代の森を知りました。それから毎年夏、社員を募り、アカテガニ放仔観察に来ています。また昨年は流域生態系と生物多様性保全について理解を深めるため、岸先生の講演会も開催しました。今年は、はじめて日中に干潟の観察会を実施しました。

8月4日（日）干潟観察&クリーンアップ

干潮の干潟で干潟に生きる生きものの観察と、クリーンアップ、そして小網代の谷の保全状況の視察をしました。

参加者 14名



<参加した社員の方の御感想 NECソフト 林 信宏様>

毎年アカテガニの見学会に家族で参加しています。夕方に紙芝居を見せて頂き、カニへの興味が増した状態で放仔を待つので自然に親近感が湧いてきます。一匹また一匹と茂みから現れる様子は愛らしく、水中で一瞬懸命放仔する姿は本当に見ごたえあり生命の神秘を感じます。小魚の群がパッと子カニ達を食べてしまうのは可哀そうですが、これも食物連鎖という大自然の掟なのですね。子供達が命の大切さを学ぶまたとない機会だと思います。

今年は初めて昼間の観察会に参画させて頂きました。ジャコウアゲハが舞う草原を抜けるとそこは一面の干潟。たくさんの種類のカニ、カニ、カニ！初めて見るチゴガニ達のダンスに感動しました！あのシオマネキも今回初めて見ました！スタッフの方はカニ博士と呼ばれて子供たちに大人気でしたね。夜とはまた違う魅力の昼の干潟を満喫した一日でした。毎回周到にご準備頂き、本当に助かります。来年もぜひ参加したいです



林さん親子



干潟の生物観察



谷の視察



外来植生除去ボランティア

臨時管理作業報告

7～8月はカニパトのため、定例作業は行いませんでしたが、中央の谷の堰が破損したので修復のため臨時作業を行いました。

☆7月15日(11名)

- トレイルの草刈り(真ん中広場～一本橋～ベンケイ橋)及び一本橋広場下手のヤナギ林内の草刈り
- 真ん中広場中央の堰改修



2013年4～8月 小網代の谷の主な利用実績

今年の上半期もたくさんの方が小網代の自然観察やボランティアに訪れて下さいました。大都市近郊には希な自然に触れ、皆さんどのような事をお感じになったのでしょうか

- NPO法人小網代野外活動調整会議
環境教育支援学校・団体(参加者数+スタッフ数)
 - 4月10日 かながわトラストみどり財団(8名)
 - 4月27日 リビエラ海洋塾(18名+2名)
 - 5月29日 横須賀学院中学校(94名+7名)
 - 6月1日 神奈川学園中学校(216名+11名)
 - 6月21日 横浜市立新橋小学校(中止)
 - 6月22日 リビエラ海洋塾(19名+2名)
 - 7月11日 横浜市立不動丸小学校(149名+10名)
 - 7月20日 リビエラ海洋塾(35名+3名)
 - 7月25日 日の出町立本宿小学校(51名+6名)
 - 8月4日 NECソフト(14名+10名)
 - 8月6日 清泉女学院中学高等学校生物部(16名+2名)
- 小網代学習ボランティアウォーク
 - 4月21日(雨天中止)、5月19日(15名)、6月16日(雨天中止)、10月21日(5名)、11月18日(2名)、12月21日(2名)、1月20日(7名)、2月17日(5名)、3月17日(4名)
- 上記以外の案内、および、独自の観察会等
 - 4月29日 小網代の森と干潟を守る会定例観察会共催(24名)
 - 6月22日 第6回こども小網代ボランティア(40名)
 - 7月21日 東京都立府中東高校公開講座「親子自然たんけん団」(40名)
 - 7月23日 富士愛育園(48名)
 - 7月23日 埼玉県川越高等学校 SSH 臨海実習(10名)
 - 8月8日 都立多摩科学技術高校科学研究部生物班(24名)



リビエラ海洋塾

外来植生駆除ボランティアの様子



不動丸小学校

干潟生物観察の様子



清泉女学院中学高等学校生物部

干潟生物観察の様子

2013年4～8月 小網代の谷の主な活用・活動実績

- トラスト緑地保全支援事業(地球環境基金助成事業としての調査・整備活動も含む)
4月21日(6名)、4月28日(20名)、5月19日(22名)、6月22日(22名)、7月15日(11名)
- 干潟調査
4月10日(3名)、4月11日(5名)、5月26日(5名)、5月27日(2名)、6月9日(!名)、6月10日(3名)、
6月24日(2名)、7月20日(2名)、7月28日(1名)、8月24日(2名)、8月25日(1名)



定例作業の集合写真



アマモ移植実験

事務局より

◆第7回こども小網代ボランティア・クリーンアップのお知らせ



小網代保全ならびに活用に、地元のこどもたち、各地の小網代ファンのこどもたちの参加を促すことを主旨としてはじまったココボラ(こども小網代ボランティア)も、はや7回!みなさまふるってご参加ください。



開催日 2013年10月20日(日) 要申込

雨天の場合11月17日(日)に順延 詳細はチラシをご参照ください。

- ◆ 毎月第3日曜日を定例活動日とします。事前に参加登録をお願いします。

| | |
|------------------------------|---|
| 定例管理作業 (10時三崎口集合、16時現地解散) | 2013年 9月22日、10月20日、11月17日 12月15日 軍手・食料・長靴持参 雨天・雷等警報発令時には中止あり |
|------------------------------|---|

- ◆ 10月より小網代学習ボランティアウォークを再開します。第3日曜日9時30分三崎口駅集合、長靴持参、汚れてもよい服装でお越しください。12時現地解散。雨天の場合は中止します。
- ◆ 2013年度も引き続き、(公財)かながわトラストみどり財団(トラスト緑地保全支援事業)、および独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金(小網代河口干潟の生物多様性保全ビジョン作成と地域連携ボランティア実践)より助成をいただき、おかげさまで順調に事業を実施しております。

特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議

連絡事務所 〒223-0053 神奈川県横浜市港北区綱島西2-19-1 レーベンス綱島西A棟

TEL 045-540-8320 FAX 045-546-4344

ホームページURL=http://www.koajiro.org/ E-mail: koajiro@koajiro.org

会費・寄付金払込先:郵便振替口座 00240-1-95307 特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議